

健康登山16:自然歩道07(宇佐山・音羽山)

| | | | | | | | | | | |
|--------|---------------|--------------|-----------------|---------------|-----------------|--------------|--------------|----------------|---------------|-----|
| コース | 西大津駅 1.9km/51 | 宇佐山 2.0km/36 | 皇子ガ丘公園 2.4km/42 | 長等公園 1.7km/45 | 逢坂山歩道橋 2.3km/92 | 音羽山 1.7km/38 | 分岐点 3.2km/58 | 国分バス停 2.2km/32 | 石山寺駅 1.7km/24 | 石山駅 |
| 水平距離 | 19.1km | | | | | | | | | |
| 水平換算距離 | 20.9km | | | | | | | | | |
| 累計高低差 | 登り955m、下り955m | | | | | | | | | |
| 標準歩行時間 | 6:57 | | | | | | | | | |
| 実績歩行時間 | 8:00 | | | | | | | | | |
| 断面図 | | | | | | | | | | |



山行報告

山行日 2006・9・7(木) 天候 曇り 参加者 7名

西大津駅8:50 近江神社9:30 宇佐山10:25 皇子ガ丘公園11:20 長等公園12:15~
 行動 50 逢坂山歩道橋13:30 音羽山15:00 分岐点15:40 西山路傍休憩所16:18 国分バス
 停16:50 石山寺駅17:20 石山駅17:50

記 録

いつものことだが天候が気になる山行だった。山行前日の雨が当日の昼ごろまで続くという予報だった。早起きして気象庁のホームページで雲の動きを見ると予想より早く天気は回復するようで、それを裏付けるように既に雨は止んでいた。

今回は東海自然歩道を天津から石山寺まで歩く計画だが、はじめに西大津駅から少し戻って前回行けなかった近江神社に参拝し、その後宇佐八幡宮の裏手から宇佐山に登った。

宇佐山の山頂部は電波塔に占拠されていて城址としてのかつての面影は何も残されていない。しかし訪れる人がかなりあるようでしっかりした踏み跡があった。

一旦西大津駅の近くまで戻り、皇子が丘公園近くの法明院から東海自然歩道に入った。三井寺山門前を通り長等神社を経て長等公園で昼食をした。大津京の史跡をゆっくり見学したので予定より少し遅れ、午後の行程が長くなってしまった。

長等公園から静かな林間の道を通り、国道1号線をまたぐ逢坂山歩道橋を越えるといよいよ音羽山の登りになる。高度差420mだから1時間ほどで登れると思ったが高温多湿の上無風でピッチが上がらない、結局1時間半かかって山頂に着いた。

音羽山頂はコース中最大のビューポイントだが正面の比叡山も見えない、琵琶湖と京都市街が辛うじて見える状態で初めて音羽山に登ったFさんには残念な結果になった。

ここから稜線を南下しパノラマ展望台を越えたところにある分岐点から石山へ向って下山した。途中にある西山路傍休憩所で小休止をした後、国分団地のバス停で一次解散をし3名がバスで石山駅へ、4名は石山寺駅まで歩き1名が二次解散、3名は石山駅まで歩き解散した。

自然歩道 (西大津~宇佐山~音羽山~石山寺)



近江神宮参拝
9:17



宇佐八幡宮
9:52



宇佐山の登り
10:12



皇子が丘公園
から宇佐山
11:13



三井寺前
11:53



長等神社
12:05



逢坂山歩道橋
13:29



音羽山の階段
14:14



音羽山頂上
15:13



パノラマ台
15:32

名所・旧跡ミニガイド（自然歩道：西大津～宇佐山～音羽山～石山寺）

近江神宮：祭神は天智天皇、昭和 15 年（1940）紀元 2600 年を記念して創建された。

天智天皇とは天のごとく限りなく知恵を持った天皇の意。日本で最初に民衆に時を定めて知らせた漏刻（水時計）の模型がある。

宇佐八幡宮：1065（治暦元）年、源頼義が九州宇佐八幡を勧請して創建した。源頼義は源頼朝の五代前の祖で近くの錦織の庄に住んでいた。鎮座の折、岩から数羽の鳩が飛び立ちその場所に導き、この岩に神の足跡が残されたと言う御足形がある。

宇佐山 334.8m（城址）：1570（元亀元）年に織田信長が家臣の森可成（森蘭丸の父）に命じて築かせた城（志賀城とも言う）宇佐山とは山腹の宇佐八幡の名からきている。

信長と朝倉氏が戦ったとき浅井軍の挟撃にあい信長は京へ退却、朝倉浅井軍が南下したので、くいとめようとして森可成が戦死。宇佐山城の端城まで連合軍は攻めあがったが落城はまぬがれた。その後体制を整えた信長は此处で対峙したと伝える翌年比叡山焼き討ちの時は、信長は宇佐山に陣を張って対陣した。先陣の明智光秀はこの城を頂きしばらく居城するが、坂本城を築きこの城は廃城となった。

錦織遺跡：天智天皇の大津宮があったところ、此处で日本最初の法律「近江令」や戸籍「康午年籍」がつくられた。壬申の乱で大友皇子の近江軍が破れ廃都となった。

法妙院：1653（承応 3）年天台密教戒律の道場として義瑞律師が開基となり創建された。（比叡山麓の安楽律院と並称される道場）フェノロサとヒゲロー両博士の墓がある、アメリカ人アーネストフェノロサは明治初年に来日、日本の古美術を研究し、その真価を日本人に教え、世界にも紹介して、日本美術の評価を高めた人、日本美術の恩人と言われている。明治 18 年法妙院に来て得度受戒した、明治 41 年ロンドンで客死、遺言にて遺骨は法妙院に葬られた。戒名は玄智院明徹諦信居士。

新羅三朗義光の墓：源頼義の子。平安後期、後三年の役で兄の源義家に協力し奥州に出向き乱を鎮めた人。関東に土着して豪族となる、その子の義清は武田氏の祖で 9 代後に武田信玄が出る。

新羅の名は智証大師円珍が唐から帰朝のとき船中に現れた新羅の国神（新羅明神坐像、国宝）の前で元服して新羅三朗義光と名乗ったと伝える。八幡太郎義家、賀茂次郎義綱の三兄弟の三番目に生まれる。墓の近くに新羅明神を祀る新羅善神堂がある

三尾神社：卯年生まれの人の守り神。伊弉諾命がこの地に降臨し長等山の地主神になったとき赤、白、黒、の三色の腰帯を垂らしていたのが、三つの尾を曳くように見えたから三尾と名づけられ、後に赤尾神、白尾神、黒尾神となり本神とされる赤尾神が卯年、卯月、卯日、卯刻、卯の方角から現れたとされることから来ている。

弘文天皇陵：壬申の乱で自害した大友皇子を明治天皇が追諡され御陵をこの地に定めた。

琵琶湖疎水：明治 18(1885)年京都府知事北垣国道が京都の復興を疎水にかけて立案、京都帝国大学の学生だった田辺朔郎博士が工事主任となって完成した。日本で初めての大運河で大津三保ヶ崎取入口から京都蹴上まで 12km ある。

小関越道標：古くは京都と北陸を結ぶ間道で東海道の逢坂越と並行していたので逢坂越を大関、この間道を小関と称した。小関越の呼び名は平家物語にもでてい、松尾芭蕉も京都から歩いた道で「野ざらし紀行」に『山路きて 何やらゆかし すみれ草』は小関越えで詠んだという。現代はハイキングコースとして知られている。道標は京、大阪、江戸に三店をもつ定飛脚問屋が江戸末期に建てたものといわれる。

げんべえの首：京都大谷本願寺が法難に遭い宗敵に焼討ちされたとき、宗祖親鸞の木造を三井寺にあずけて北陸へ逃れた真宗中興の祖、蓮如が旅先から帰って木像の返却を求めたが三井寺の衆徒が「人間の生首と交換しよう」と難題をふっかけた、これを聞いた堅田の漁師、源兵衛がその首を差し出し親の源右衛門が持参して木像を取り返したと言う。首は小関町等正寺に安置されているが（参詣公開）堅田浮見堂の近くの光徳寺にも安置されている。光徳寺には源兵衛親子の首切り様子の像がある。また三井寺町の両願寺（非公開）にも安置されているという。首が三つある謎話。

長等山：標高 286m 長柄山、長良山とも書き、志賀山とも呼ばれる。

長等公園：智証大師円珍の尊像を背負って比叡山上から園城寺（三井寺）へ移したと伝える高僧の慶祚阿闍梨入定窟（国重文）がある。

長等神社：天智天皇が勸請した建速素盞鳴命と智証大師が 858 年に合祀した大山咋命を祀る。園城寺を守護（鎮守）する神社として栄えた。

平忠度の歌碑：「さざ浪や しがのみやこはあれにしを むかしながらの山ざくらかな」忠度は清盛の弟、平家一門が西国へ逃れるとき、和歌の師匠である藤原俊成に歌首一卷を託し一の谷合戦で敗死する。俊成が千載和歌集を撰集したとき故郷の花と題する忠度の一首を採用した、しかし賊将となった人の歌であるので「詠み人知らず」としたとある。この歌にながらの山とあるので大正 3 年（1914）に建てられた。

近松寺：園城寺五別所の一つで円珍が刻んだ観音像を安置する。

投足弁財天：境内にきな粉地藏あり、散髪の嫌いな子がきな粉を持って拝むと功德があると伝える。

三井寺：天台寺門宗、総本山園城寺の俗称。大友皇子（弘文天皇）の子、大友与多王が建立したと伝える、大友氏の氏寺を唐から帰朝した円珍が復興して延暦寺の別院とした。園城寺の名の由来は壬申の乱で亡くなった、父の菩提のため自分の田や住まいのすべてを寄進する「田園城邑」で寺を建立、感動した天武天皇から園城の勅額を賜ったことに由来する。三井寺と称されるのは天智、弘文、天武、の三人の天皇が産湯に使った井戸があるからだとも、關伽井（御井）の有る寺だから三井の寺になったとも言う。

逢坂 165m：仲哀天皇妃の子、忍熊王が、三韓遠征帰路の神功皇后、誉田別尊（応神天皇）武内宿弥等の大和入りを阻止抵抗したので、武内宿弥が忍熊王を討とうと奇略用いて追いかけたところ、ここで両軍がばったりと出会ったので逢坂と名づけたと「日本書紀」にある。

逢坂は相坂、合坂、会坂とも書く。平安京の頃は逢坂の関、不破の関、鈴鹿の関とて天下の三関といわれたが、桓武天皇が公私の往来を妨げるので798年（延暦8）逢坂関は残し不破、鈴鹿の二関は廃止された。

音羽山：娘二人を垂仁天皇（11代）の妃にもつ山背大国不遲は夢の中で、山の頂にいと大きな鳥が白装束の老人をのせて羽音高く飛来し、「この山は靈山であるので観音浄土にせよ」とお告げを残して去った、翌朝、大国不遲がこの山に登ると夢に出てきた老人の木履が残されていたので、この山を開山し、音羽山と名づけたという。

幻住庵：松尾芭蕉が元禄3年（1690）門人の菅沼曲水（曲翠）の伯父、幻住老人の庵に約4ヵ月滞在した、そのときに記したのが「幻住庵紀」である。芭蕉はこの庵を離れたあとも、近江の地が忘れがたく、遺言により大津の義仲寺に墓がある。

石山寺：「石山の石にたばしる霰かな」芭蕉
天然記念物の硅灰岩が石山寺の名前の由来。（石灰岩と花崗岩がぶつかりあったその熱作用で溶けたように形成された岩）

瀬田唐橋：昔は瀬田の長橋と呼ばれた、鎌倉時代に中国の架橋にならって橋を架けたので唐橋と呼ぶようになったらしい。古くは、忍熊王が謀反を起こし武内宿弥に攻められ瀬田川に身を投じたという。壬申の乱時代から数多く歴史の舞台に登場する交通の要所の名橋。このころは現代の橋から約300m下流にあり藤曼で絡んであったので搦橋または流麗な形をしているので青柳橋ともいわれた。今の位置に橋を移したのは天正3年（1575）織田信長で、昭和54年現代の橋が架けられた、大橋全長172m、小橋51.75m幅12mである。
《滋賀県の歴史散歩より》